



# 「学校における働き方改革」



を推進しています。



## 目的

子どもたちによりよい教育を行うために

「学校における働き方改革」は、学校の教職員の「子どもと向き合う時間」や「授業の準備をする時間」を確保することで、教育の質を維持・向上させることを目的としています。言い換えると、「学校における働き方改革」を推進することは、子どもたちがよりよい教育を受けられるようにすることを意味します。(裏面の文部科学大臣メッセージ参照)

## 内容

主な取り組みの内容は、次のとおりです

### 学校閉庁時刻の設定

小学校は、19:00

中学校は、20:00

教職員の勤務時間は、小学校16:45、中学校16:40までですので、学校閉庁時刻前でも、職員が不在の場合があります。

### 学校閉庁日の設定

8月13日 ~ 8月15日

土日祝、年末年始の休日に加え、新たに学校閉庁日を設定します。学校閉庁日は、平日でも教職員が不在の場合があります。

### 留守番電話の設置

教職員の勤務時間は、小学校は、8:15から16:45まで、中学校は、8:10から16:40までです。勤務時間外の電話については、職員不在の場合、音声ガイダンスに切り替わります。

### 部活動休養日の拡大

中学校の部活動休養日を週当たり2日以上設定します。  
平日及び土・日にそれぞれ1日以上休養日とします。夏休みや冬休みの期間中も同様です。

その他にも・・・

○部活動指導員の配置 ○コミュニティ・スクールの推進 など

## 《保護者・地域の皆さまへ》 ～学校の働き方改革へのご理解・ご協力をお願いします～

いま、社会全体で働き方改革が進められていますが、学校の働き方改革は特に待ったなしの状況です。

皆さまのお住まいの地域の学校は、毎日どのような御様子でしょうか。

朝は子供たちが登校する前の7時すぎから子供たちを迎えるための準備を始め、夜は職員室の明かりが20時前までついていて、土日もグラウンドや体育館で部活動をやっている、これは全国の小・中学校の平均的な姿です。

一人一人の子供たちと丁寧に向き合いたいという思いから、毎日時間に追われて働いているため、先生は他の職業と比べてストレスが高いというデータもあります。

「そのくらいなら、自分の方が働いている!」「忙しいのは先生だけみたいなこと言わないで!」。皆さまから、そんな声が聞こえてくるかもしれません。

ですが、働き方改革が必要なのは先生を楽にするためではありません。学校が、子供たちの未来に直結する場所だからです。

御存じのとおり、これから大きく社会が変わろうとしています。今でもパソコンやスマホ、外国人との仕事や交流など、私たちが子供だったときとは、取り巻く環境が違ってきています。学校は、子供たち一人一人がそんな未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所でなくてはなりません。

きちんと文章が理解できる力、答えのない問題に対し、自分で考え、仲間と協力して取り組む力、知らない人に自分の意見を正確に伝える力、そして英語やプログラミングなど、しっかり子供たちに身に付けさせなくてはなりません。

学校の働き方改革は、これまでの先生の働き方を見直し、毎日元気に子供たちの前に立って未来につながる力を育む教育を行うために必要なものなのです。先生には、授業やその準備をはじめとした先生にしかできない教育活動に全力投球していただきましょう。

お住まいの地域の学校でも、これから『朝の登校時間を改める』『夜は学校も留守番電話を設置する』『部活動の時間を見直す』『子供の補導時は基本的に保護者に対応いただく』といった取組が始まります。

こうした中、地域全体で子供たちによりよい教育環境を実現するため、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、それぞれ何ができるか考え、連携・分担することが重要です。例えば、保護者や地域の方々などがサポート・スタッフや部活動指導員、ボランティアとして学校に参加する、土日の地域行事や登下校時の見守り、夜間の見回り等は地域が主体的に担うといった取組をこれまで以上に進めていただくことも考えられます。特に、PTAに期待される役割は大きく、学校や地域との役割分担を話し合い、共通理解を得ながら、活動を充実することが大切です。

未来を担うのは子供たちです。子供たちのために我々みんなで取り組んでまいりましょう。子供たちの教育をますます良くする、そのための学校の働き方改革にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

平成31年(2019年)3月18日  
文部科学大臣 柴山昌彦